



取り組み・現状



『ジェンダーで学ぶ社会学』

伊藤 公雄・牟田 和恵 // 編 世界思想社 367/J36

男・女の二色刷りから、個性の光る多色刷りの社会へ…。「育つ」から「シューカツする」、そして「ケアする」までの身近なできごとを、ジェンダーの視点から見なおし、「あたりまえ」をくつがえします。

『相談の力』

須藤 八千代・土井良 多江子 // 編著 明石書店 367/S016 (栄分館)

相談は対人援助職のスキルではなく、相談者との相互作用の中から生まれる「判断し続ける知」。方法論に囚われることなく、自分と自分のことばを大事にした相談員の実践をまとめています。相談員の労働環境に関する調査結果も収録。

『女性と子どもの貧困』

樋田 敦子 // 著 大和書房 367/H54

なぜ普通の主婦がヤミ金にまで手を出してしまうのか。なぜ普通の学生が奨学金を返せず借金地獄に陥るのか。社会から孤立した女性たち、子どもたちがおかれている貧困の実情に迫る渾身のルポ。「婦人公論」掲載を単行本化。

『ネウボラ フィンランドの出産・子育て支援』

高橋 睦子 // 著 かもがわ出版 369/Ta33

妊娠期から就学前まで、すべての家族を切れ目なくサポートするフィンランドの出産・子育て家族サポートセンター「ネウボラ」を紹介。そのあゆみ、支援の現場と実際のほか、対話のためのインタビューガイドなども収録しています。

貸し出し中の場合はご予約できます。
また、分館からお取り寄せもできます。
カウンターまでお申し出ください。

女性問題 ブックリスト

2015年度 下半期購入分
三条市立図書館



女性と労働



『働く』とはどういうことか？

花村 邦昭 // 著 三和書籍 159/H27

男性性が立脚する「機械論パラダイム」は、従来の定型的な制度運営などに有効だったが、現代のような複雑系社会では、女性性に親和的な「生命論パラダイム」が有効になっている。生命論パラダイムから「働く」ことを捉え直します。

『マタハラ問題』

小酒部 さやか // 著 筑摩書房 366/O73

働く女性が妊娠・出産・育児を理由に退職を迫られたり、嫌がらせを受けたりする「マタハラ」。いまや働く女性の3人に1人が経験していると言われる、その実態は、どのようなものなのか。当事者の生の声から問題を掘り下げます。

『働くママ』の仕事術』

金澤 悦子 // 著 かんき出版 366/Ka48

自分も子育てもラクになる、ママの幸せな働き方とは？ 時間管理、キャリアづくり、人間関係、感情のコントロール、産休・育休という、ママが悩みを抱えがちな5つのテーマの解決策を紹介します。

『不妊治療とキャリア継続』

乙部 由子 // 著 勁草書房 366/O86

少子化問題が叫ばれるなか、今や産まれてくる子どもの24人に1人が不妊治療によるという。先行きのみえない不妊治療と仕事は両立することが可能なのか、また両立するには何が必要なのか、聞き取り事例から読み解きます。

『マイペースで働く！女子のひとり起業』

滝岡 幸子 // 著 同文館出版 335/Ta73

小さなサロン、移動販売、お教室…。好きなこと・得意なことで喜んでもらってお金も稼ぐ、女子のひとり起業。成功する人が実践している仕事の選び方、時間とお金の使い方などを大公開。実行・継続のヒントとノウハウが満載です。



みんなの生き方



『女性官僚という生き方』

村木 厚子・秋山 訓子 // 編 岩波書店 317/J76

日本的長時間労働の典型だった霞が関が、いま大きく変わろうとしている。採用・登用政策で女性が大幅に増える霞が関。次官や専門職など様々な女性官僚が、リアルな生き方・働き方を語ります。

『貧困女子のリアル』

沢木 文 // 著 小学館 367/Sa94 (栄分館)

街金での借金、親からのDV、男性への依存…。学歴があるのに、なぜお金の困るのか、なぜ人生を捨てたような日常になってしまうのか。アラサー、アラフォーシングルの間でも広がっている貧困の実態を明かします。

『女子のチカラ』

米澤 泉 // 著 勁草書房 367/Y84

なぜ女子は「強くなりたい」と願うのか。岡崎京子の漫画や蜷川実花の映画に描かれた女子の姿を原点として、彼女たちにとって装うとはどのような意味を持っているのか、「強くなること」とどのように関わっているのかを考えます。

『専業主夫』になりたい男たち』

白河 桃子 // 著 ポプラ社 367/Sh83 (栄分館)

今や11万人ともいわれる「主夫」。キャリア女性の裏には家事・育児を担う男性の姿があった…。リアル主夫とその妻の取材をもとに描き出す現代夫婦の新しい肖像。大黒柱妻・小島慶子との対談、主夫の妻たちの座談会も収録。

『男はなぜこんなに苦しいのか』

海原 純子 // 著 朝日新聞出版 498/U74

医学博士・心療内科医である著者が、男性のストレス要因をアイデンティティーの危機という視点からとらえ、回復力を身につけて、ストレスに強い自分になるための方法を紹介합니다。